

「世間」のものの見方の共通認識と認識源に関する予備的研究

——「世間」のものの見方は確かに共有化されているか？

「世間」の認識源はどこにあるのか？——

吉原 智恵子

本稿は、2009年に発足した世間心理学研究会¹における「『世間』現象の認識に関する研究分科会」の研究活動の一環として筆者が行った予備的研究の報告である。以下に述べるように、「世間」は日本人の社会的行動を理解する上で重要な概念のひとつであるとする見解は少なくない。しかし「世間」のもつ機能には、水準の違いはあるにせよ、文化を超えた一側面を見ることもできるように思われる。いずれにしてもこれまでのところ、「世間」と個人との心理・社会的関係に着目した研究は非常に限られていた。そこで世間心理学研究会では、現在様々な観点からの研究活動が進展しつつある。

個人が「世間」とどのように折り合いをつけるかに関連して、まず Newcomb (1960) が指摘した、われわれの認知の成立に関わる2つの作用について参照する。Newcombの仮定する2つの作用とは、1つは実在-指向的な力 (reality-oriented forces) であり、もう1つは自閉的な力 (autistic forces) である。実在-指向的な力とは、ある態度対象がもつ特性について正確に評価することを志向する力である。言い換えると、われわれがある態度対象に対してもつ期待や予測が正確に実現することを志向する力であり、対象との適応的關係において、明瞭な報酬に結びつくことが予測される。また自閉的な力とは、ある態度対象に対する他者の評価に依存する作用を指し、他者の評価によって自分自身の対象への評価が妥当であると支持されることが報酬となる。つまり、他者の適応様式への適応を志向する力を指している。どちらも我々の社会生活上の適応にとって重要な方向づけ機能をもつが、後者については特に、他者との関係性を重視する人々あるいは重視せざるを得ない状況下にある人々の意思決定や社会的行動を理解する上で、重要性が高まることが予測される。そしてこの後者の作用はいわゆる「世間」への適応を志向すると見ることのできるのではないだろうか。

わが国では「世間」が準拠枠を提供し、これを広く遵守してきたという見解がある。「世間は日本人の生活の枠組みとなっている」(阿部, 1995, p.14)、あるいは「わが国の人びとは、おおむね、『世間』に準拠して、はずかしくない行動をすることを、社会的規範の基本においてきた

(井上, 1977, はじめに p.2)」という指摘はその一例である。さらに高野・櫻坂 (1997) は日本人が集団主義的であるという言説に異を唱える論評を行っているが、その中で、明治維新から第二次世界大戦が終了するまでの期間においては、国内外を問わず日本人は集団主義的であるということを印象づける状況があったと述べている。それは欧米諸国との軍事的な対峙が迫られる中、治安維持法や特別高等警察などを駆使して国内の思想的統制をはかった国家主義的な施策を指している。高野らは集団主義に関する言及をしているのではあるが、これを当時の個々の日本人の目を通して見るならば、「世間」が個人の思想や行動を強く規定していたと見ることができよう。以上を踏まえると、少なくとも明治期以降の日本における「世間」は、準拠枠として機能してきたと考えられるのではないだろうか。そして「世間」のこのような機能は、「世間」のものの見方が人々の間で共通認識として成り立っていたことを前提としている。

しかし、近年は「世間」のレベルや「世間」観が多様化してきているという指摘もある。例えば井上 (1977) は、第二次世界大戦後、家族国家観イデオロギーが崩壊し、「世間」という準拠集団の階層構造が崩壊したことにより「世間」観が多様化してきたと述べている。このことは共有化された「世間」のものの見方についての認識が、国や村のような大きな集団としては成立しにくくなってきたことを意味している。また鴻上 (2010, 朝日新聞 12月1日朝刊) は、終身雇用や年功序列といったしきたりによって守られてきた「世間」が急速に崩壊し始めていると指摘する。

しかし同時に、「世間」に対する意識が希薄化されていると見られる今日においても、準拠集団としての「世間」という本質は変わらない、あるいは「世間」のもつ機能は変わらないという見方がある (井上, 1977; 中村, 2011)。上記の鴻上 (2010) においても、日本人にはコミュニティに対して「世間」と「社会」という2つのとらえ方があり、「世間」とは自分と直接的に利害関係があるか将来利害関係が発生するかもしれない集団であり、「社会」とはしがらみのない公の世界であると指摘し、近年よく見受けられる車内化粧は、車内が「社会」であって「世間」ではないがために恥ずかしさを感じないのであるという。鴻上の「世間」の定義は、阿部 (1995) の「世間」の定義と一致している。阿部 (2005) もまた、「世間」とは、自分と利害関係のある人々と将来利害関係をもつであろう人々の全体の総称であると述べている。

これらの指摘を踏まえると、現代においては直接的に利害関係がおよぶ範囲に限定された比較的せまい「世間」の領域において、特定の準拠枠の共有化が成立しているということになるのだろうか。つまり、「ひろい世間」は失われ、これにかわって「せまい世間」が台頭し、その「せまい世間」におけるものの見方については共通認識が成立しているということになるのだろうか。

またこのことに関連して井上 (1977) は「『せまい世間』に固執しようとする世代に反発している若い世代も、そのじつ、自分が『ひろい世間』にとらわれていることに気づいていないだけ」であると述べている (p.95)。したがって70年代の井上の考察とは逆転する現象が近年生起しており、現代においては、車内化粧をする若い世代 (車内化粧は若者に限定される行為とみなしてよいのかどうかは、検証すべきであろう。) は「せまい世間」にとらわれているとみることがで

きるのではないだろうか。70年代に若い世代であった世代は、今もって「ひろい世間」にとらわれているのか、あるいは現代の若い世代と同じように「せまい世間」にとらわれるように変化しているのかは一つの問題を提起している。

しかし本研究では、「せまい」あるいは「ひろい」世間という「世間」の領域の限定には踏み込まず、まず「世間」の認識に関する研究の端緒を開くために、人々が個々に抱く「世間」のものの見方は確かに共有化されているのか、またどのように共有化されているのか、ということを探的に調べ、あいまいで複雑な世間現象（阿部，1995）の輪郭を多少なりとも浮き彫りにすることを第一の目的とする。したがって本稿における「世間」の定義は現段階では明確なものではない。調査対象者それぞれが理解する「世間」を取り上げることにする。さらにこれとあわせて、「世間」のものの見方についての認識の源泉はどこにあるのかを明らかにすることを第二の目的とする。

方 法

調査対象者は日本福祉大学子ども発達学部心理臨床学科の学生74名（男性22名，女性52名），平均年齢18.4歳（*SD* 0.51）であった。2010年7月に，1年生を対象とする授業において一斉に質問紙調査を実施した。なお，調査については日本福祉大学総合研究機構における倫理審査委員会の承認を受けて実施された。

質問紙は3問から構成された（Table 1）。まず日本福祉大学の学生に対する「世間」の見方について，自由記述により2つの回答を求めた。次にこれら2つの「世間」の見方に対応する認識の源泉について，誰から，あるいは何からそのような見方を伝達されたかについて具体的に記述するように教示し，認識の源泉に関する記憶がはっきりしない調査対象者については無理に回答することを求めず，次の質問へ進むように促した。そして最後の質問として，回答された2つの「世間」の見方について，そのように認識するに至ったエピソードを具体的に記述することを求めた。

Table 1 質問内容

1	世間は，日本福祉大学の学生をどのように見ていると思いますか？思い浮かぶことを2つ御記入ください。
2	1であなたが書かれたような，日本福祉大学の学生への見方について，具体的に誰かに言われたり，何かで読んだりしたことはありますか？ある方は，誰からどのように言われましたか？あるいは，何に書かれていましたか？具体的に御記入ください。そのような記憶がない方は，3へ進んでください。
3	1であなたが書かれたような，日本福祉大学の学生への見方について，そのようにあなたが思うに至ったエピソードがある方は具体的に御記入ください。

結 果

(1) 「世間」のものの見方（自由記述）の分類

日本福祉大学の学生に対する「世間」の見方の回答（自由記述）に対して、類似する回答内容によるカテゴリーを作成し、全回答を分類した。このカテゴリーの作成および分類は2名により個別に行い、その後両者で協議することにより合意を形成した。調査対象者は日本福祉大学の学生に対する「世間」の見方を2つ回答しているため、それぞれ世間の見方1、世間の見方2として別々にカテゴリー分類を行った。

その結果、世間の見方1、2のそれぞれにおいて「やさしい」「福祉の学習者」「福祉の志」「福祉のブランド大学」など、回答者が共有していると見られる内容が見出された（Appendix 1, 2）。また、「やさしい」「福祉の志」「福祉の学習者」「低学力」などのカテゴリーは、世間の見方1、2に共通して見られた。

しかしその一方で、頻度は低いが内容として相反するものも含まれていた。例えば「福祉の専門の大学として、名前も各地域から幅広く生徒が集まるほど知れ渡っており、福祉を学ぶ上で有名だと思われると思う」に対して「基本的に知名度が低いと思う」、「あまり知られていないと思う」という回答や、「人柄の明るい人が多い」に対して「暗い」という回答が見られた。さらに「いい学生だ」に対して「マナーが悪い」「素行の悪い人が多い」などもある（Table 2）。ただし回答内容が具体的ではないため、厳密な意味で矛盾していると解釈すべきかどうかの判断は困難である。

(2) 「世間」のものの見方に関する認識の源泉

日本福祉大学の学生に対する「世間」の見方としてあげられた内容に関するカテゴリーを、さ

Table 2 相反する内容と見受けられる回答（ ）内は重複数

有名だが偏差値は低い 福祉の専門の大学として、名前も各地域から幅広く生徒が集まるほど知れ渡っており、福祉を学ぶ上で有名だと思われると思う	VS. 無名大学に通う学生 偏差値やレベルの低い学生 基本的に、知名度が低いと思う あまり知られていないと思う
人柄の明るい人が多い	VS. 暗い (2)
いい生徒だ いい学生だ いい人 誠実な人 みんな穏やか 全体的にまじめな学生が多い まじめ 真面目な生徒が多い 福祉を学ぶ学校だからまじめで誠実そう 真面目そう	VS. マナーが悪い (2) 素行の悪い人が多い 電車で騒いでいる人を見ると、うっとうしいと思 っていると考えられます 学部によっては、あまり良いふうと思われていない学 生がいると思う ヤンキー

らに「善良な人柄」「福祉指向」「素行・学力低水準」「その他」の4つのカテゴリーに集約し、これらに対して、具体的に誰からあるいは何からその情報を得たのかという認識の源泉（質問項目2および3）をクロスさせて集計したのがTable 3, 4である。認識の源泉として具体的な人やメディア等をあげることができなかった回答者においても、エピソード記述（質問項目3）より、普段自分が見聞きしている直接的な経験からそのような「世間」の見方を読み取ったという回答が少なくないため、それらを「自らの経験」としてカテゴリーに加えることとした。「世間」のものの見方に関する認識の源泉としては、親やきょうだい、友人のような身近な人や、教員、情報誌、インターネットや新聞などのメディアが挙げられ、さらに「自分」や「自らの経験」を挙げる人も少なくなかった。

またこの認識の源泉を自分/ウチ/ソトとして再区分し、「世間」のものの見方のカテゴリー

Table 3 世間の見方1(分類)と認識の源泉(複数あり)とのクロス表

		源泉 (誰から)								計	源泉 (何から)				計
		家族	親戚	友人	教師	知人	初対面 の人	自分	自らの 経験		パンフ レット	情報誌	イメ ージ	メデイ ア ^a	
善良な人柄	やさしい 15	3	1	2	1	0	0	1	4	12	0	0	0	0	0
	福祉マインド 4	2	1	2	0	0	0	0	3	9	0	0	0	0	
	よい学生(人) 4	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	
福祉指向	福祉の学習者 12	1	1	1	2	0	0	0	2	7	2	1	1	0	3
	福祉の志 9	1	0	0	1	4	0	1	4	11	0	0	0	1	1
	福祉指向 7	2	0	2	1	1	1	0	1	8	0	0	0	0	0
	福祉のブランド大学 8	2	0	0	4	3	0	1	1	11	0	0	0	1	1
素行・学力低水準	マナーが悪い 3	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0
	低学力 2	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1
その他	24時間テレビのドミノ倒し挑戦者 2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
	その他 8	1	0	4	0	0	0	0	2	7	1	1	0	0	2

a. インターネットや新聞

Table 4 世間の見方2(分類)と認識の源泉(複数あり)とのクロス表

		源泉 (誰から)								計	源泉 (何から)				計
		家族	親戚	友人	教師	知人	初対面 の人	自分	自らの 経験		パンフ レット	情報誌	イメ ージ	メデイ ア ^a	
善良な人柄	やさしい 10	1	1	4	0	0	0	0	7	13	0	0	0	0	0
	よい人 3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	真面目 5	1	0	1	1	2	0	1	0	6	0	0	0	0	0
	元気・明るい 2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
福祉指向	ボランティアに積極的 5	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	2
	サークル活動が盛ん 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	福祉の学習者 5	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
	福祉の志 6	1	0	0	1	0	0	0	3	5	0	0	0	1	1
	福祉のブランド大学 3	0	0	0	2	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0
素行・学力低水準	マナーが悪い 3	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
	低学力 8	0	0	2	2	1	0	1	3	9	0	1	0	1	2
その他	24時間テレビのドミノ倒し挑戦者 2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	知名度が低い 2	0	0	2	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0
	緑豊かなキャンパス 2	1	0	0	1	0	0	1	0	3	0	0	0	1	1
	その他 6	2	0	0	0	1	0	0	1	4	0	1	0	0	1

a. インターネットや新聞

Table 5 世間の見方1と源泉との関係 (度数) (ウチ/ソト/自分の重複含む)

	ウチ			ソト				自分 自分	合計
	家族	親戚	友人	教師	知人	初対面の人	メディア等		
善良な人柄 計	5	3	4	1	1	0	0	8	22
		12				2		8	
福祉指向 計	6	1	3	8	8	1	6	10	43
		10				23		10	
その他 計	2	0	5	0	0	0	3	7	17
		7				3		7	
合計		29				28		25	82

Table 6 世間の見方2と源泉との関係 (度数) (ウチ/ソト/自分の重複含む)

	ウチ			ソト				自分 自分	合計
	家族	親戚	友人	教師	知人	初対面の人	メディア等		
善良な人柄 計	2	1	5	1	3	0	0	9	21
		8				4		9	
福祉指向 計	1	0	1	4	1	1	4	5	17
		2				10		5	
その他 計	4	0	5	3	2	0	4	9	27
		9				9		9	
合計		19				23		23	65

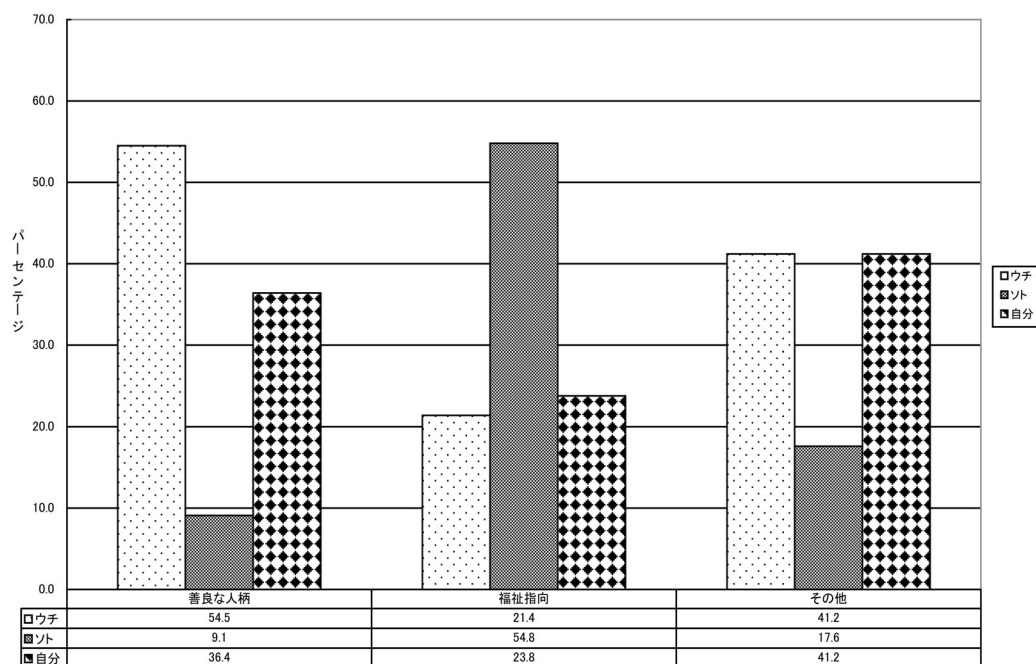


Figure 1 世間の見方1に対する源泉の比率

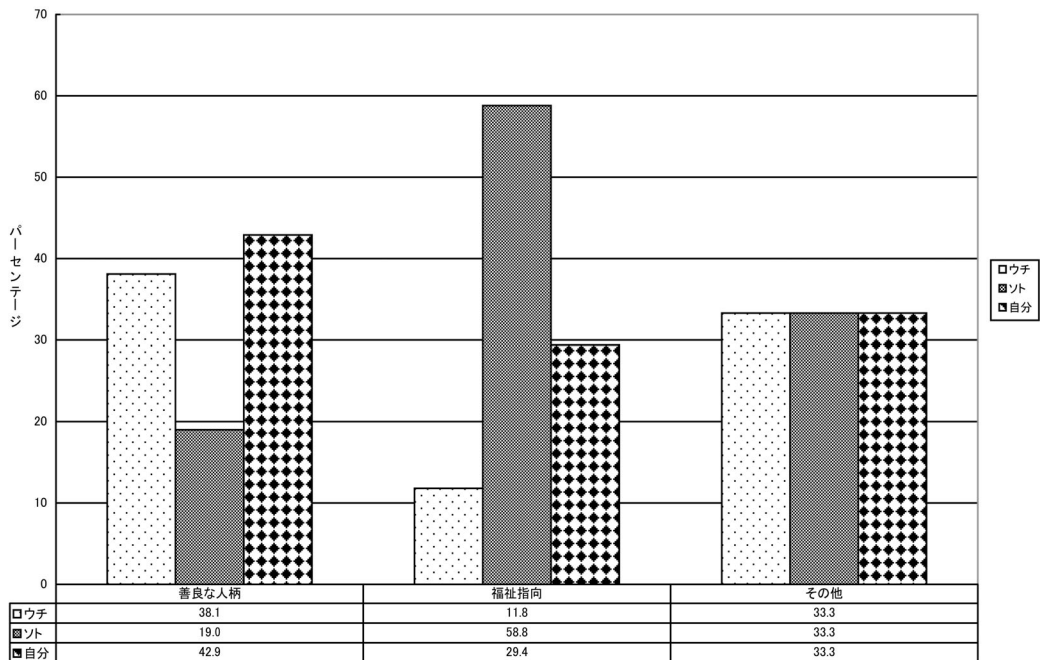


Figure 2 世間の見方2に対する源泉の比率

において頻度の少なかった「素行・学力低水準」を「その他」に含め、認識の源泉と「世間」のものの見方との関係を示しているのが Table 5, 6, および Figure 1, 2 である。Table 3, 4 において認識の源泉を「自分」「自らの経験」と分けていたものを合併させ、「自分」とした。また、ミウチ（家族、親族）とナカマウチ（友人）（井上, 1977）をウチの関係、それ以外の関係をソトの関係として整理した。なお、認識の源泉である自分/ウチ/ソトは、重複している場合も含まれる。

これらの結果を比率で見ると、世間の見方1, 2ともに、「善良な人柄」（やさしい、よい人、等）という内面にかかわる評価についてはウチの関係にある人を源泉とする割合が高く、ソトの関係にある人の割合が低いことが読み取れる。これに対して「福祉指向」（福祉の学習者、福祉の志、ボランティアに積極的、等）という、社会と個人との連結を想定した公的・外面的な評価については、ソトの関係にある人の割合が高くウチの関係にある人の割合が低い様子が読み取れる。さらに、自分の見方や実際に見聞きするなどした自らの経験を認識源とする割合も一定数観測されたといえよう。

また、認識の源泉として複数の対象が回答されたケースにおいて、2番目以降に書かれた回答を除き、自分/ウチ/ソトの源泉の重複分を排除して集計したものが Table 7, 8 である。これらに対して²検定を行ったところ、世間の見方1 (Table 7) については内容と源泉との有意な関連が見られ ($\chi^2=17.8, df=4, p<.001$)、残差分析の結果、「善良な人柄」はウチの関係にある人を源泉とする度数が有意に多くソトの度数が有意に少ないこと、および「福祉指向」はウチの

Table 7 世間の見方1と源泉との関係(度数)*

()内は%	ウチ	ソト	自分	計
善良な人柄	11(57.9)	2(10.5)	6(31.6)	19(100.0)
福祉指向	4(12.5)	19(59.4)	9(28.1)	32(100.0)
その他	6(40.0)	3(20.0)	6(40.0)	15(100.0)
計	21	24	21	66

* ウチ/ソト/自分の重複を排除

Table 8 世間の見方2と源泉との関係(度数)*

()内は%	ウチ	ソト	自分	計
善良な人柄	7(38.9)	4(22.2)	7(38.9)	18(100.0)
福祉指向	2(13.3)	10(66.7)	3(20.0)	15(100.0)
その他	8(42.1)	6(31.6)	5(26.3)	19(100.0)
計	17	20	15	52

* ウチ/ソト/自分の重複を排除

度数が有意に少なくソトの度数が有意に多いことが示された(すべて $p < .01$)。但しセルの中に期待度数が5未満のものが2つ(ともに期待度数4.8)含まれるため、参考程度の結果である。また世間の見方2(Table 8)に対しても同様に分析を行ったところ、内容と源泉との関連傾向が見られた($\chi^2 = 8.1, df = 4, p < .10$)。残差分析の結果から、「福祉指向」はソトの度数が有意に多く($p < .01$)ウチの度数が少ない傾向があり($p < .10$)、また「善良な人柄」はソトの度数が少ない傾向が見られた($p < .10$)。しかしTable 8についても期待度数が5未満のセルが2つ(期待度数4.9および4.3)含まれたため、今後、データ数を補うなどして再分析を行う必要がある。

考 察

「世間」のものの見方の共有化

「日本福祉大学の学生」という対象に対する「世間」の見方・評価として、「やさしい」「福祉の学習者」「福祉の志」「福祉のブランド大学」など、福祉に関わる評価を中心に各側面で共有化された「世間」の見方についての認識内容が見られたと考えられる。一方頻度は低いが、内容として相反する可能性を含む評価も含まれていた。しかし、本来多様であるはずの学生の二面性(多面性)がそのまま現れているとも考えられる。例えば有名・無名の両評価については、東海では知名度があり福祉系大学としてはブランドであっても、その他の地域ではあまり知名度は高くなく、福祉以外の領域ではブランド大学とはいえないという実態を反映しているとみることが出来るであろう。また認識の源泉として、自らの考えや直接学内で見聞きしてきた経験が挙げられる頻度も少なくなかったことから、各個人の様々な経験を背景として、一見相反するよう見える多様な認識が含まれた可能性がある。

また今回のデータでは、頻度は少ないが、他者と共有化されていない「世間」の見方についての認識内容も含まれていた。この頻度自体をどう理解するかは十分な議論を必要とするが、認識の源泉がどこにあるかにかかわらず、もともと「世間」の評価は不確かな根拠に基づくこともあり得ると考えられる。そのために様々な認識源をもって、フォールス・コンセンサス (Ross, Greene, & House, 1977) が生じている可能性もある。つまり、自らが考える「世間」の認識内容の背後に多く的一致した見方をする多数者がいることを過大評価する傾向が生じることもあり得るであろう。

「世間」を認識する源泉

認識の源泉にはミウチやナカマウチが含まれていた。井上 (1977) の区分によれば、ウチの世界の人々は「世間」ではない。しかし中村 (2010, 2011), 風間・角尾・下斗米・飛田 (2010), 角尾・飛田・下斗米・風間 (2010) の指摘するように、ミウチやナカマウチは「世間」を伝達する者としての役割を持つことが確認できる。さらに源泉としては、「世間」を伝播する伝達者としての他者以外に「自分」を源泉としてとらえる回答が一定数見られたため、「自分」は「世間」からの評価の対象であり、同時に世間の一員として自らも評価をくだす存在であるという二重性を示しているようにも思われる。あるいは、このときの認識の源泉としての「自分」とは、主体としての「私」ではなく、「世間」を「私」に伝播するときの「自己」機能の一側面があらわれている可能性もある (中村, 2011)。今後、さらに詳細な検討が必要である。

また、阿部 (1995) および鴻上 (2010) の「世間」の定義では、直接的な利害関係があるか、あるいは将来的に利害関係をもつことを予測できる人々を「世間」としている。したがって阿部や鴻上の定義から解釈すると、今回認識源として出現したメディア等 (パンフレット, 情報誌, イメージ, インターネットや新聞) を「世間」にあてはめることは困難である。これに対して井上 (1977) は、準拠集団としての「世間」を区別する規準は「ウチ」と「ソト」の観念であると述べ、土居の甘え理論を基に、同心円からなる3つの領域に分けている。一番内側にある世界をミウチ, ナカマウチの世界, 一番外側にある世界をタニン, ヨソのヒトの世界, その中間帯を「世間」(せまい世間とひろい世間) とした。ただし、現代社会における交通・通信技術とマス・メディアの発達は著しく、「世間」は飛躍的に拡大したと同時に、「セケン」「タニン」ないし「ヨソのヒト」の境界線はかなりあいまいになっていると指摘している。メディア等が示す評価や情報は、「世間」が示すものとして人々の間に認識されており、今回の分析においてソトとして整理した源泉を「世間」とみることが可能であろう。ただし井上が指摘したように、どのような範囲を「世間」とみなすかについては、近年特に混沌化していると見ることができるであろう。ミウチ, ナカマウチとタニン, ヨソのヒトの中間帯にあり、直接利害関係を想定できる範囲にある人々を「世間」とすること, また、準拠集団であることを前提とした場合、インターネットを介したコミュニケーションにおいても、国境を越えた「世間」が可能になる。個人における「世間」は、刻々と変化する可能性がある。

「世間」のものの見方の認識内容とその源泉との関係

「世間」のものの見方についての認識内容とその認識の源泉との関係については、世間の見方 1, 2 とともに、「善良な人柄」という内面的な評価に関わる内容についてはウチの関係にある人からその多くが発生し、「福祉指向」という、社会と個人との連結を想定した公的・外面的評価に関わる内容についてはソトの関係にある人から多く発生する、というように関係性によって「世間」の評価として伝達される内容に偏りが見られた。内面的な評価がウチの関係にある人から発生しがちであることは、ウチの関係にある人との関係性において共有する課題が内面的な交流を含むものであることを反映しており、また社会生活上の公的・外面的な評価がソトの関係にある人から発生しがちであることは、ソトの関係性にある人と共有する課題そのものを反映していることを推測できるであろう（弓削, 1996）。このように、「世間」のものの見方の伝播については伝えられる内容と情報の源泉に一定の傾向性が存在することが示唆され、常にミウチが伝播の情報源になっているわけではなく、「世間」を認識する情報源は分化され、ウチ - ソトの関係性が反映される内容をもつことが示されたといえよう。

またミウチ等からの直接的なコミュニケーションを介する場合には、コミュニケーション過程において、情報の受け手の態度と一致した内容に限定した情報が伝達された可能性がある。「話したことを信じる効果」(saying is believing effect; Higgins & Rholes, 1978) によれば、コミュニケーション過程において話し手から伝達される第三者（ターゲット）に対する評価内容は、受け手がターゲットに対して抱いている態度（ポジティブ/ネガティブ）に一致するように話し手が自ら調整したものとなり、さらにこのような過程を経て、ターゲットに対する話し手の態度や記憶は伝達した評価内容に沿って形成される。Hausman, Levine, & Higgins (2008) はこの現象を拡張する実験を行い、集団を評価内容の受け手とする場合においても、また集団をターゲットとする場合においてもこの効果が生じることを示している。またそのような過程を経ることにより、「共有化された実在性」(shared reality; Echterhoff, Higgins, & Levine, 2009) が顕現化されることを示している。今回のテーマであった日本福祉大学の学生という集団に関する「世間」の評価について考えるなら、情報の源泉であった話し手が受け手（今回の回答者）の態度を知る場合に、その態度に一致する情報が伝達され、これを「世間」のものの見方として認識されることが仮定されるであろう。すなわち、直接的コミュニケーション（主としてミウチ）からの「世間」のものの見方の伝達内容は、受け手の態度を無視して伝えられる一方的な情報伝達ではないと考えることができる。そして受け手の態度に一致した情報伝達が行われる場合には双方に共有化される評価内容のリアリティが高まり、「世間」のものの見方としての認識が強まることが予測される。このように「世間」のものの見方が伝播されるとき受け手は、情報に対して完全に独立ではなく、話し手とともに「世間」の見方を構成していると考えることができる。さらに自分の見方や実際に見聞きするなどした自らの経験を認識源とする割合も一定数観測されたことは、「世間」を構成する「私」（中村, 2011）の無意図的な自覚が働いている可能性がある。今後、「世間」と「私」との二重性について、詳細に検討することが求められる。

「世間」と集団主義との関連

「世間」に準拠しようとする場合には、時として個人の利益や目標よりも準拠集団としての「世間」における利益や目標を優先させることが含まれるであろう。これは、Triandis (1995) および Yamaguchi, Kuhlman, & Sugimori (1995) らの集団主義の定義と一致する。例えば居住地域のコミュニティ活動が、私的ではあるがその個人にとっては重要な諸事とぶつかってしまった状況下で、近隣の人々とともに行うコミュニティ活動を優先させるときには、個人の利益より集団の利益を優先させる集団主義的傾向を示すと解釈される。

日本人は集団主義的であると見る多くの意見が存在するが (e.g. Hofstede, 1980; Markus & Kitayama, 1991), 一方、これを通説にすぎないとする意見もある (高野・櫻坂, 1996; 高野, 2008)。後者の主張は、その測定方法および実証的データの解釈の問題をはじめ、認知的バイアスに基づくステレオタイプを起源とすることなどの問題点が挙げられている。先に述べたように、高野・櫻坂 (1996) はしかし、明治維新から第二次世界大戦までの期間は、日本人が集団主義的であるとの印象を欧米人だけではなく、日本人自身も抱くに至った国家主義的な戦略が存在したことを指摘している。そしてこのような状況下で見られた集団の目標を優先させる行動は、日本人に限定されることなく一般的な反応として説明することも可能であろうと論じている。同様に、「世間」の規範を優先させる認識や行動についても、一定の条件を示す状況下において文化を超えた一般的な反応としてとらえることが可能ではないだろうか。

また、個人の判断のよりどころとしての準拠集団は、その時々において何を判断するかという内容によって変化する一面をもつ (Heine, Lehman, Peng & Greenholtz, 2002)。その時々参照する準拠集団が異なるとすれば、「世間」としての準拠集団も変化する可以考虑することができる。ユビキタス社会と呼ばれる今日、あるときは国境を越えた集団が「世間」となり、またあるときはそれよりも狭いコミュニティが「世間」となることもあろう。集団という包括的概念を未分化に扱う場合、個人と集団との関係性が不明確になり混乱が生ずると同様の問題は、「世間」についても生じるであろう。その時々で準拠する集団が異なるなら、「世間」と個人との心理・社会的関係性も異なることが考えられ、その際に生じる認知や行動も変化する事が予測される。

【文献】

阿部謹也 (1995) 「世間」とは何か 講談社

Echterhoff, G., Higgins, E.T., & Levine, J.M. (2009) Experiencing commonality with other's inner states about the world. *Perspectives on Psychological Science*, 4, 496-521.

Hausman, L.R.M., Levine, J.M., & Higgins, E.T. (2008) Communication and group perception: Extending the 'Saying is believing' effect. *Group Processes & Intergroup Relations*, 11, 4, 539-554.

Heine, S.J., Lehman, D.R., Peng, K., & Greenholtz, J. (2002) What's wrong with cross-cultural comparisons of subjective Likert scales?: The reference-group effect. *Journal of Personality and Social Psychology*, 82, 903-918.

Higgins, E.T., & Rholes, W.S. (1978) "Saying is believing": Effects of message modification on memory and liking for the person described. *Journal of Experimental Social Psychology*, 14, 363-378.

- Hofstede, G. (1980) *Culture's consequences*. Beverly Hills, CA.:Sage.
- 井上忠司 (1977) 「世間体」の構造 社会心理史への試み 日本放送出版協会
- 風間文明・角尾美奈・下斗米淳・飛田操 (2010) 第6回世間心理学研究会 (7月3日) 発表資料
- 鴻上尚史 (2010) クール・ジャパンは本物か 朝日新聞 (2010年12月1日朝刊)
- Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991) Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, 98, 224-253.
- 中村陽吉 (2010) 第6回世間心理学研究会 (7月3日) 発表資料
- 中村陽吉 (2011) 世間心理学ことはじめ 東京大学出版会
- Newcomb, T.M. (1960) Varieties of interpersonal attraction. In D.Cartwright, & A.Zander (Eds.), *Group dynamics. Research and Theory* (2nd ed.). Harper & Row. Pp.104-119. (永田良昭 (訳) (1969). 対人魅力の諸相 三隅二不二・佐々木薫 (訳編) グループ・ダイナミックス 誠信書房 pp.125-145.)
- Ross, L., Greene, D., & House, P. (1977) The false consensus effect: An egocentric bias in social perception and attribution processes. *Journal of Experimental Social Psychology*, 13, 279-301.
- 高野陽太郎・櫻坂英子 (1997) "日本人の集団主義" と "アメリカ人の個人主義" - 通説の再検討 心理学研究 68, 4, 312-327.
- 高野陽太郎 (2008) 「集団主義」という錯覚 日本人論の思い違いとその由来 新曜社
- Triandis, H.C. (1995) *Individualism and collectivism*. San Francisco, CA: Westview Press. (神山貴弥・藤原武弘 (編訳) 個人主義と集団主義 2つのレンズを通して読み解く文化 北大路書房)
- 角尾美奈・飛田操・下斗米淳・風間文明 (2010) 世間に対する自己機能 (1) - 自我整合性の伝播機能の検討 - 日本社会心理学会第51回大会発表論文集 370-371.
- Yamaguchi, S., Kuhlman, D.M., & Sugimori, S. (1995) Personality correlates of allocentric tendencies in individualism and collectivistic cultures. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 26, 658-672.
- 弓削洋子 (1996) 自他関係の相互依存性が自他認知の相互規定性に及ぼす効果 心理学研究 67, 3, 177-185.
- 脚注
- 1 中村陽吉元学習院大学教授を中心として、「世間」と個人との心理・社会的関係を明らかにするため、多角的な研究を行っている。

Appendix 1 世間の見方1に対する分類

<p>1. やさしい (15)</p> <p>心優しい学生が多いと思っている</p> <p>福祉を学んでいるので、思いやりがあると思っています</p> <p>周りに優しく</p> <p>優しい</p> <p>優しい</p> <p>福祉大学なので、人として思いやりがある人がいること</p> <p>心の優しい人が多い</p> <p>優しく</p> <p>優しい</p> <p>優しい</p> <p>福祉の大学に通っているから、思いやりがある 優しい人が多いなど</p> <p>福祉を学ぶ大学だから、優しい人ばかりに違いない</p> <p>福祉を学んでいる優しい人</p> <p>頼りやすい 人に優しい</p> <p>優しい人柄だと見ている</p>	<p>2. 福祉の学習者 (12)</p> <p>福祉について深く学んでいると思う</p> <p>福祉を学んでいるんだ</p> <p>福祉のことについて学んでいる</p> <p>福祉について勉強している (研究している)</p> <p>福祉を学習する学生</p> <p>福祉について考え、勉強する</p> <p>福祉について勉強している</p> <p>福祉について学んでいる学生</p> <p>福祉を真剣に学ぼうとしている</p> <p>福祉の最先端を学んでいる</p> <p>福祉の領域について詳しい知識を知っている</p> <p>福祉のことに関して詳しい 福祉という名前がついているから</p>
<p>3. 福祉の志 (9)</p> <p>将来の福祉の担い手</p> <p>福祉を専攻し福祉系を中心に夢に向かって頑張っている</p> <p>大学卒業後は福祉関係の仕事に就く、福祉に関心のある学生</p> <p>将来は老人ホームなどの高齢者の人と関わる仕事に就くと思っている</p> <p>福祉を学んでいるから、将来それを専門にする人が多い</p> <p>福祉系に進む人</p> <p>福祉をやっている人 老人介護などをしているイメージ</p> <p>福祉を志す人たちの集まり</p> <p>日本の福祉界にとっても貢献していると思っている</p>	<p>4. 福祉のブランド大学 (8)</p> <p>福祉については、トップクラス</p> <p>福祉の専門の大学として、名前も各地域から幅広く生徒が集まるほど知れ渡っており、福祉を学ぶ上で有名だと思われると思う</p> <p>福祉の専門分野について伝統的に研究してきた実績</p> <p>福祉に関してはNo.1の大学である</p> <p>「福祉」という名前だけあって、福祉に強い学校と見ていると思う</p> <p>福祉大としては良い</p> <p>福祉関係者の中では、学習環境や資格取得に関して充実した大学に通っている学生</p> <p>福祉について力を入れている学校なんだなと思っていると思う</p>
<p>5. 福祉指向 (7)</p> <p>福祉に興味がある</p> <p>福祉に関心がある学生</p> <p>福祉に興味を持っている</p> <p>福祉に関して強い関心を持っている学生</p> <p>福祉関係に強い</p> <p>福祉に興味のある人たち</p> <p>福祉に興味がある人</p>	<p>6. 福祉マインド (4)</p> <p>福祉の心を持っている学生</p> <p>福祉の心を持った学生</p> <p>なんか、福祉の精神に則った学生だなあ、と思われるかも！？</p> <p>福祉の大学なので、学生はみんなボランティア心のある生徒だと思っていると思う</p>
<p>7. 良い学生 (人) (4)</p> <p>いい生徒だ</p> <p>いい学生だ</p> <p>いい人柄の人が多い大学</p> <p>良い人</p>	<p>8. マナーが悪い (3)</p> <p>マナーが悪い</p> <p>素行の悪い人が多い</p> <p>電車内で騒いでいる人を見ると、うっとうしいと思っていると考えられます</p>
<p>9. 低学力 (2)</p> <p>学力が低い 授業の参加態度がよくない</p> <p>偏差値が低い</p>	<p>10. 24時間テレビのドミノ倒し挑戦者 (2)</p> <p>24時間テレビでドミノをする</p> <p>24時間テレビに出ている</p>
<p>11. その他</p> <p>真面目そう</p> <p>「福祉」という名前がつくくらいだから、きっと、評判のいい学校なのだろうな</p> <p>すごい</p> <p>暇人だと</p> <p>暗い</p> <p>大学生だな</p> <p>勉強をがんばっている若者</p> <p>日本で二番目に、障がい者が通っている学生が多い</p>	

Appendix 2 世間の見方2に対する分類

<p>1. やさしい (10)</p> <p>心のやさしい人</p> <p>優しい人</p> <p>みんな優しい、思いやりがある</p> <p>(福祉=優しい)という考えがあると思うので優しい人たちの集まり</p> <p>老人やケガ人や障害者に席を譲ったりする人もいた</p> <p>人に親切にするのかな</p> <p>他人のことを思いやれる学生</p> <p>思いやりがありそう</p> <p>優しい生徒 みんな福祉の道に進むだろうと思われてそう</p> <p>人の役に立ちたい人だと見ている</p>	<p>2. 低学力 (8)</p> <p>すべり止め</p> <p>頭があまり良くないと思っていると思う</p> <p>学力的なレベルは低そう</p> <p>無名大学に通う学生 偏差値やレベルの低い学生</p> <p>学力的に中～中の下</p> <p>愛知県の人にとってはすべり止めとして受験する人が多い</p> <p>あまり頭は良くない</p> <p>有名だが偏差値は低い</p>
<p>3. 福祉の志 (6)</p> <p>福祉を目指す子たちなんだな</p> <p>福祉の道にみんな進む</p> <p>将来は福祉系に進みたいと思っている</p> <p>福祉社会に貢献している人たちだと思っています</p> <p>福祉大だから社会に出ても役に立ちそう 高齢者にとって明るい未来をつくる人たちになりそう</p> <p>介護</p>	<p>4. ボランティアに積極的 (5)</p> <p>ボランティアに積極的だ</p> <p>ボランティアに積極的</p> <p>ボランティアに積極的に参加している</p> <p>ボランティア活動が盛んである</p> <p>ボランティアなどを多く参加している</p>
<p>5. 福祉の学習者 (5)</p> <p>福祉についてよく勉強しているな</p> <p>福祉を学ぶ</p> <p>福祉について学んでいる人が多い</p> <p>福祉関係に興味がある学生</p> <p>福祉について学ぶ学校</p>	<p>6. まじめ (5)</p> <p>全体的にまじめな学生が多い</p> <p>まじめ</p> <p>真面目な生徒が多い</p> <p>福祉を学ぶ学校だからまじめで誠実そう</p> <p>日福生の人は、まじめで努力家の学生が多く、福祉系の就職率が高い</p>
<p>7. 福祉のブランド大学 (3)</p> <p>伝統のある大学</p> <p>大きな大学のイメージ</p> <p>行って損をしない大学</p>	<p>8. 良い人 (3)</p> <p>いい人 誠実な人</p> <p>みんな穏やか</p>
<p>9. マナーが悪い (3)</p> <p>マナーが悪い</p> <p>学部によっては、あまり良いふうには思われていない学生がいると思う</p> <p>ヤンキー</p>	<p>10. 緑豊かなキャンパス (2)</p> <p>自然に囲まれて学んでいる</p> <p>名古屋郊外にある緑豊かな大学</p>
<p>11. 24時間テレビのドミノ倒し挑戦者 (2)</p> <p>ドミノががんばってるね</p> <p>24時間テレビのドミノ</p>	<p>12. サークル活動が盛ん (2)</p> <p>サークル活動が盛ん</p> <p>24時間テレビに出ていることもあり、活動的な大学とされていると思う</p>
<p>13. 元気・明るい (2)</p> <p>元気な人たち</p> <p>人柄の明るい人が多い</p>	<p>14. 知名度が低い (2)</p> <p>基本的に、知名度が低いと思う</p> <p>あまり知られていないと思う</p>
<p>15. その他</p> <p>また、先生や生徒たちもしっかりしているそうだな</p> <p>頭でっかち(知識ばかり)</p> <p>障害のある学生と交わりがある</p> <p>大学生だなあ</p> <p>暗い</p> <p>将来面倒を見てくれる</p> <p>福祉の心をもっている</p>	